資料３　参考

木材需給動向について（全国）

令和３年４月

林野庁

目次

1　価格の動向

（１）　直近の価格推移（原木市場・共販所）

ア　スギ（全国）

イ　ヒノキ（全国）

（２）　製品価格の推移・動向

2　工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

（１）　製材（全国）

（２）　合板（全国）

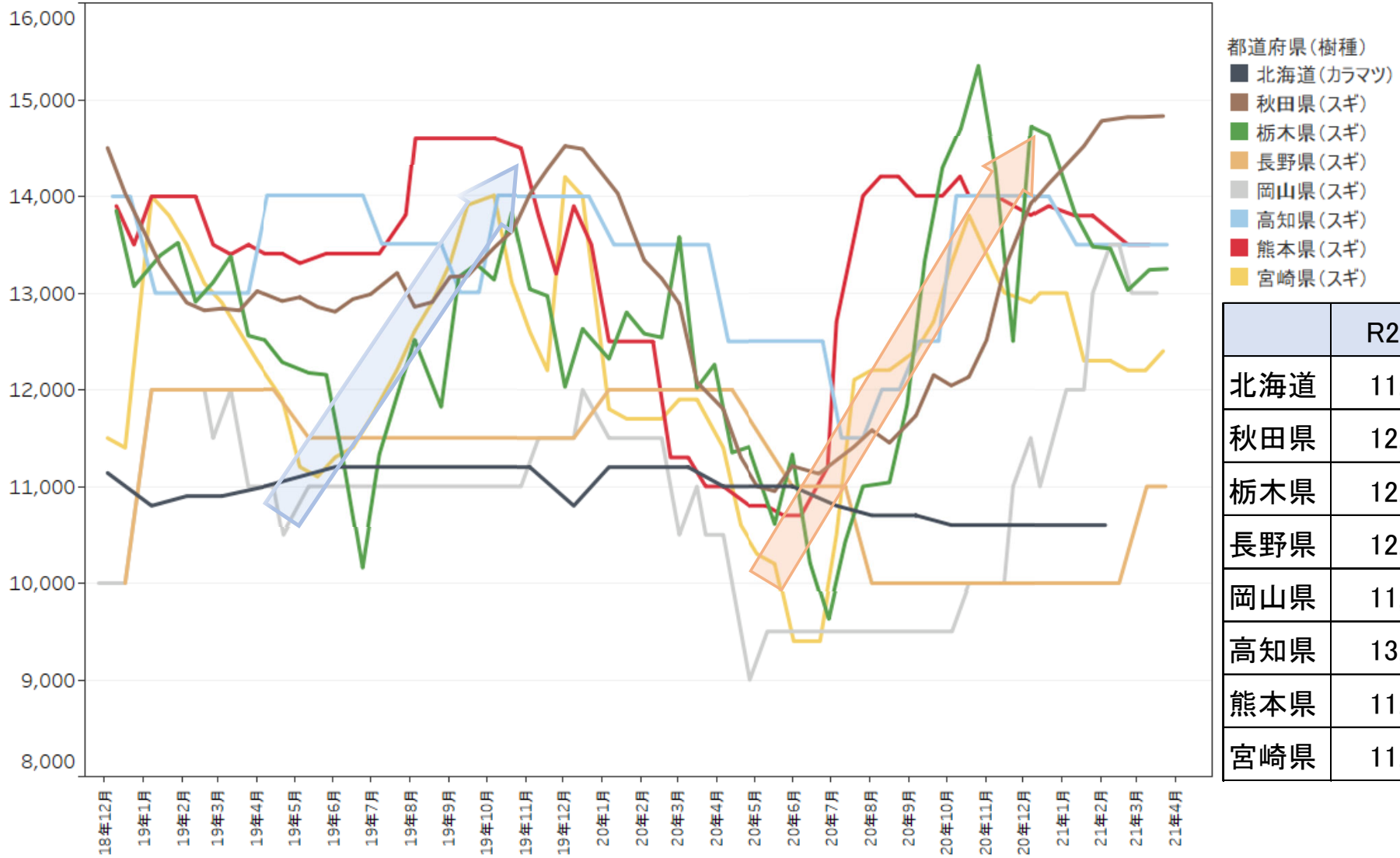
（３）　プレカット稼働率（地域別・全国）

（４）　チップ（全国）

3　住宅着工戸数の推移

1　価格の動向　（１）直近の価格推移　（原木市場・共販所）
ア　スギ（全国）　φ24cm程度、3.65～4.0m（平成30年12月～）

- 令和２年６月頃の価格は、コロナ禍による需要減により**例年よりも大きく低下した**が、その後、価格が上向きに転換。**11月頃に前年と同程度まで上昇**しており、価格の面ではコロナの影響が出る以前まで回復。
- 令和３年３月のスギ原木価格は、**対前年比８％減から23%増と増加している地域が多い。**



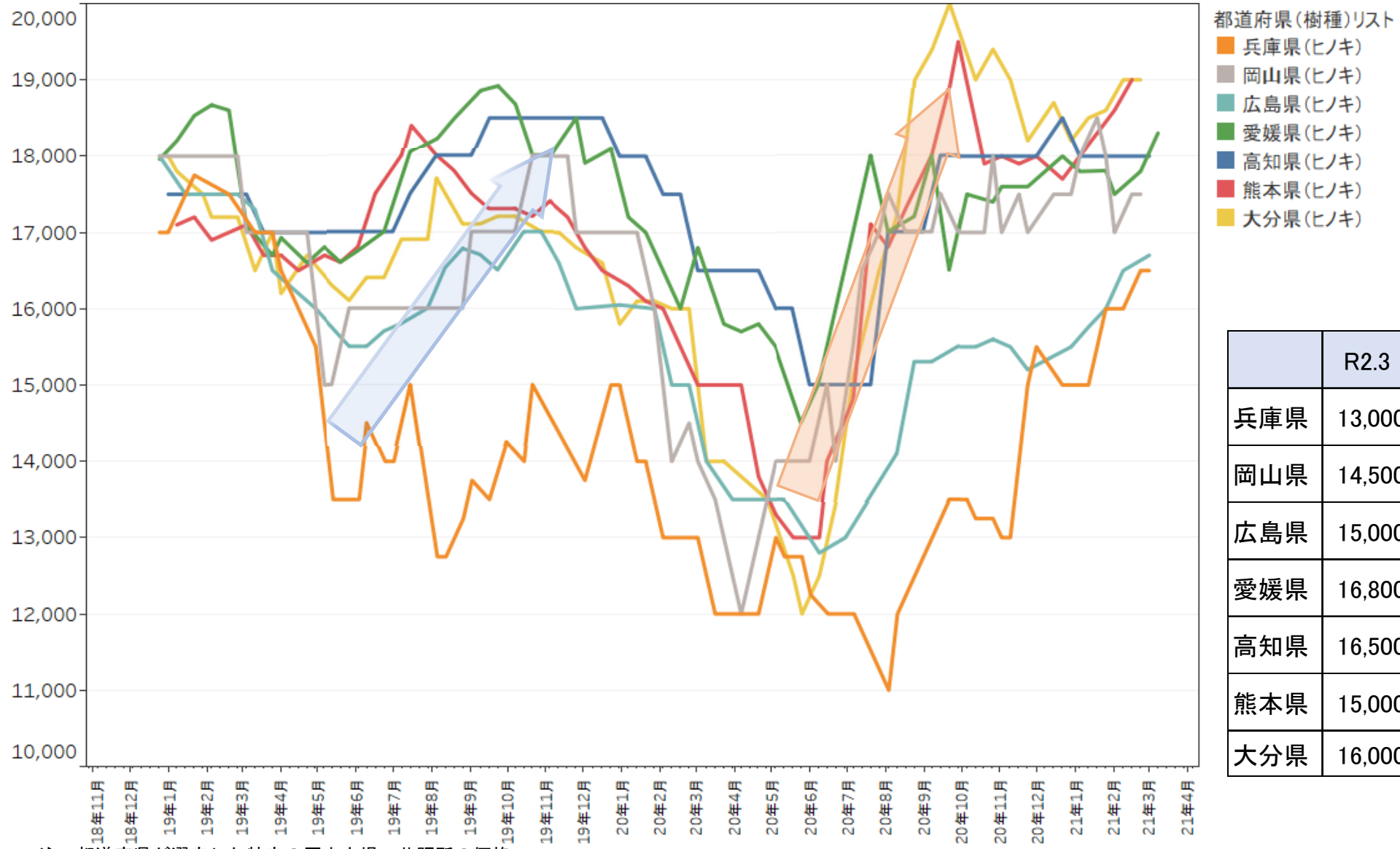
	R2.3	R3.3	R3.3/R2.3
北海道	11,200	10,600	−5%
秋田県	12,080	14,830	23%
栃木県	12,020	13,250	10%
長野県	12,000	11,000	−8%
岡山県	11,000	13,000	18%
高知県	13,500	13,500	0%
熊本県	11,300	13,500	19%
宮崎県	11,900	12,400	4%

注１：北海道はカラマツ（工場着価格）。径級は24.0cm程度、長さは3.65～4mの中目原木。
注２：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

イ　ヒノキ（全国）　φ24cm程度、3.65～4.0m（平成30年12月～）

- ヒノキにおいてもスギと同様の傾向にあり、**令和２年６月頃の価格は例年以上に大きく低下**したが、**10月頃には昨年同程度かそれ以上の価格まで回復**している地域も見られる。
- 令和３年３月のヒノキ原木価格は、**対前年比９％～27%増と増加している地域が多い。**



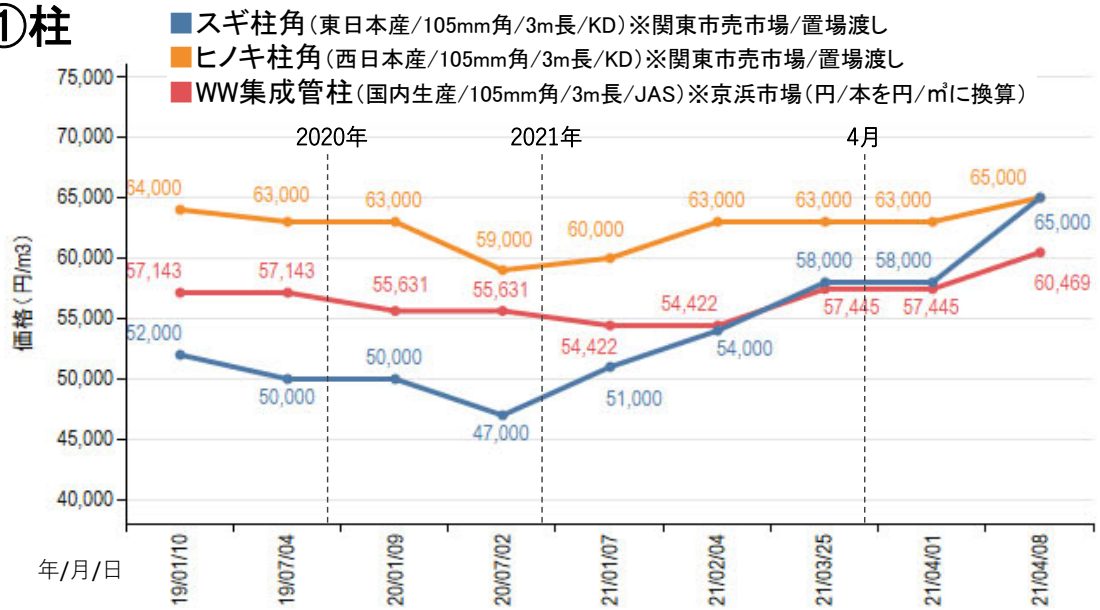
	R2.3	R3.3	R3.3/R2.3
兵庫県	13,000	16,500	27%
岡山県	14,500	17,500	21%
広島県	15,000	16,700	11%
愛媛県	16,800	18,300	9%
高知県	16,500	18,000	9%
熊本県	15,000	19,000	27%
大分県	16,000	19,000	19%

注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。
資料：林野庁木材産業課調べ

（２）製品価格の推移・動向

- **輸入材製品価格**は、北米における住宅着工戸数の増加、中国の木材需要拡大、世界的なコンテナ不足による運送コストの増大等により**高騰**。
- **国産材の代替需要が発生し、国産材製品価格も上昇。**

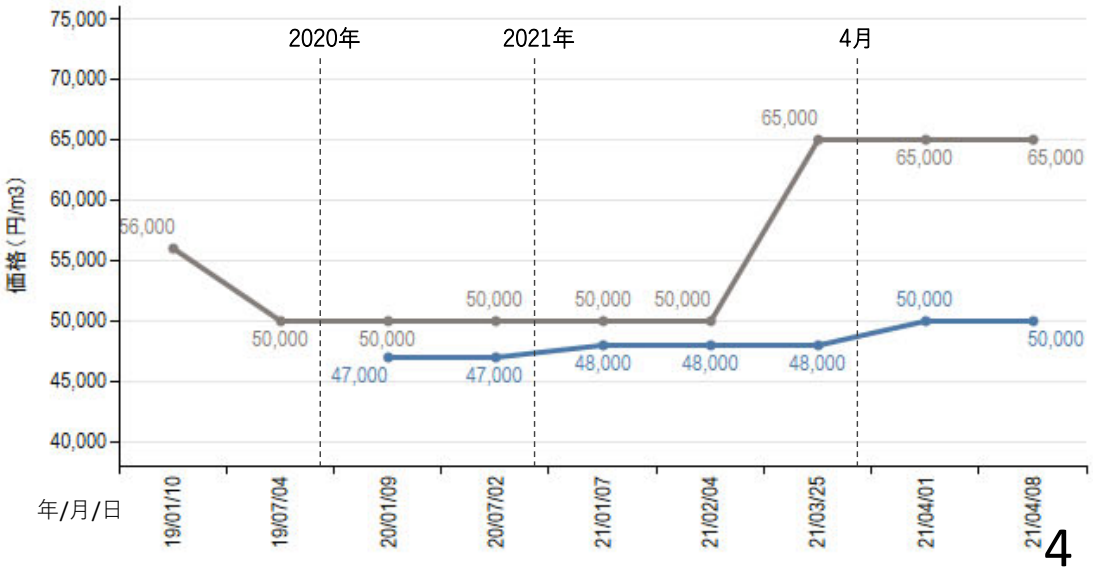
①柱



②間柱

③垂木

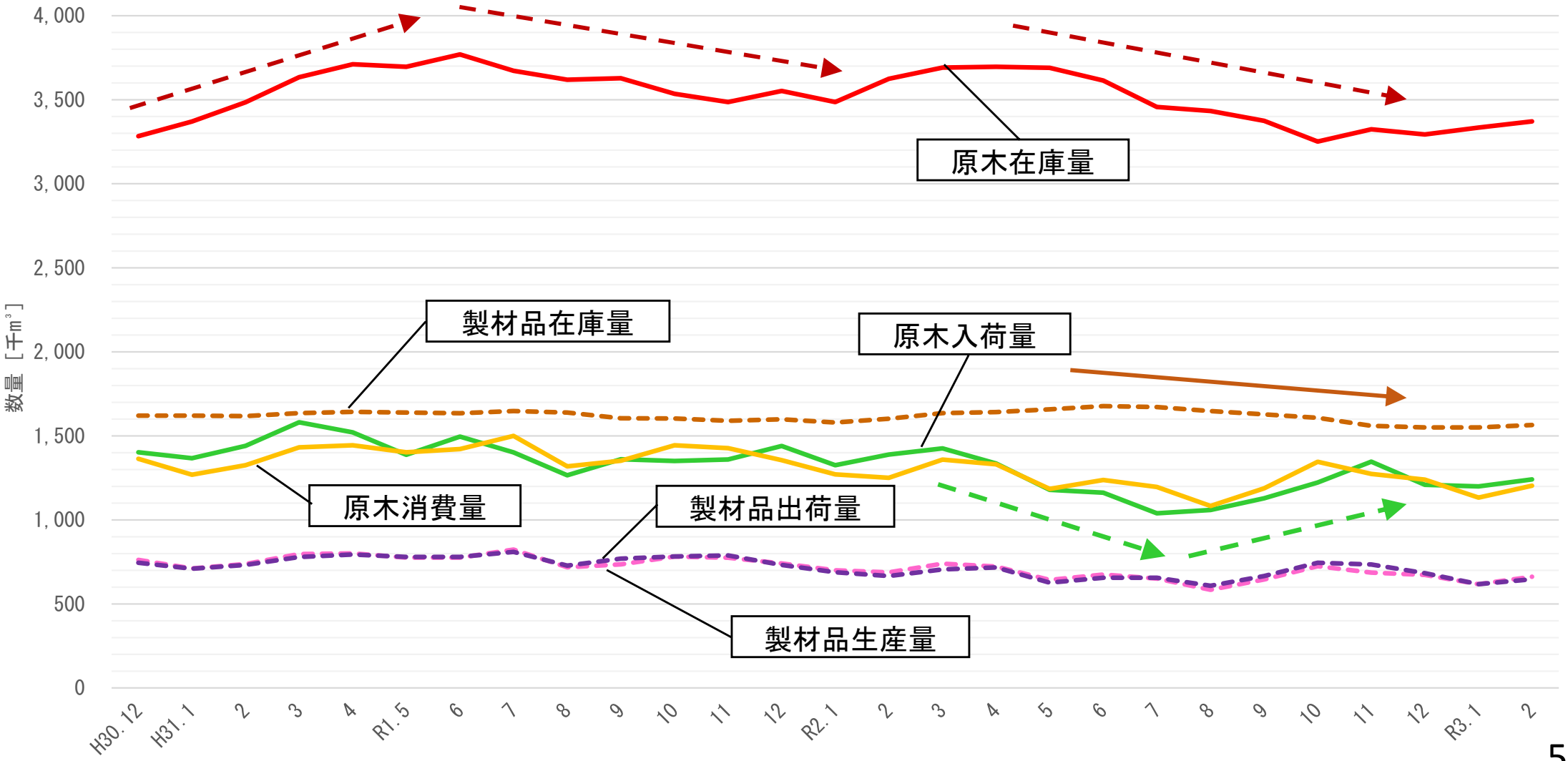
④2x4



資料：木材建材ウイクリー

2　工場の原木の入荷、製品の生産等の動向
（１）製材（全国）

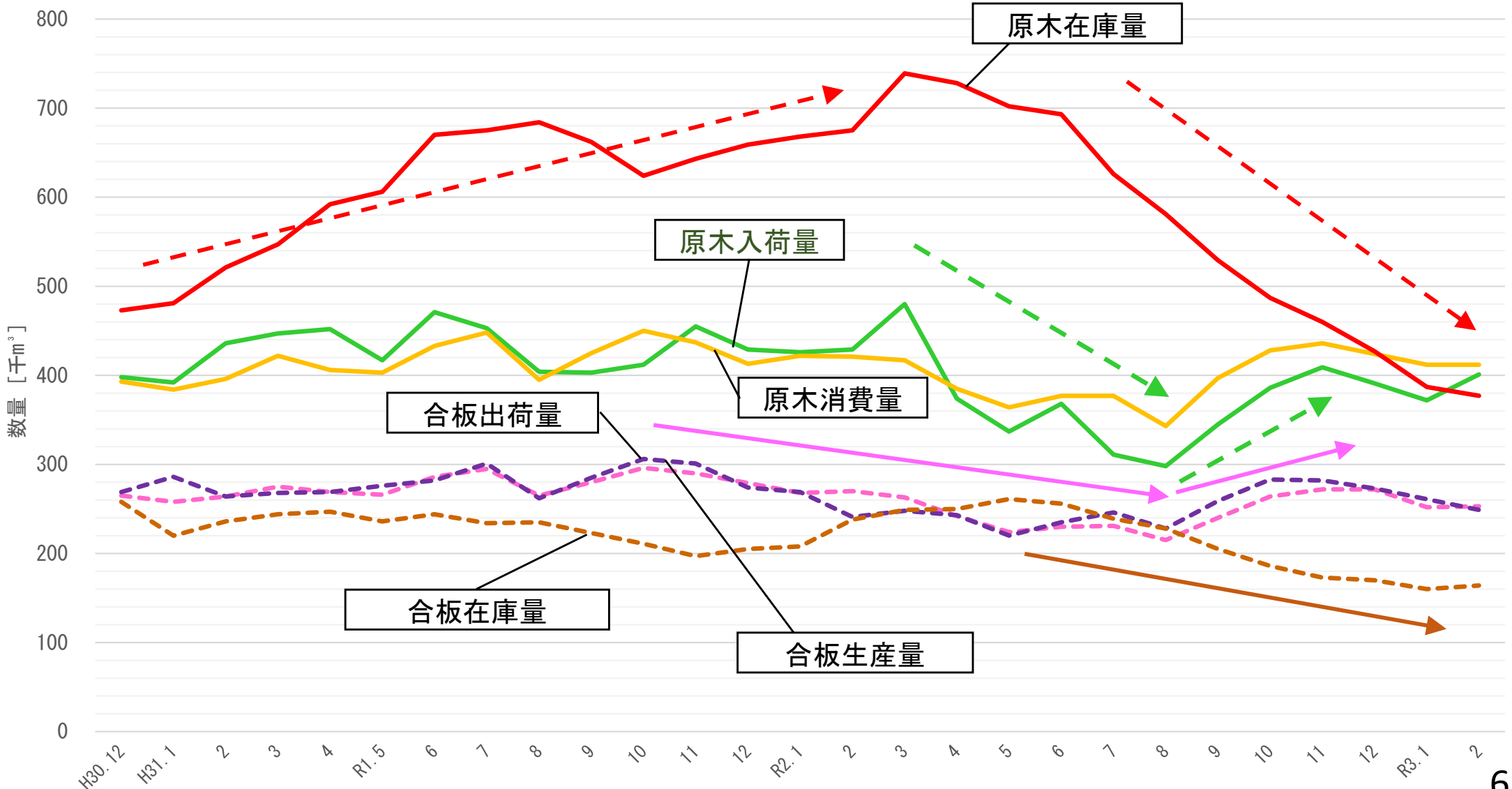
- **原木の入荷量、消費量は、**令和２年**４月以降減少**したが、**８月から上昇**に転じている。１２月には原木不足の影響からやや減少した。原木の在庫量は微増傾向にあるが、例年の季節変動の範囲。
- **令和２年の製材品の生産量、出荷量は、**数ヶ月で増減を繰り返したものの**令和元年に比べ、年間で見れば１割の低下となった。**在庫量は令和２年６月以降緩やかな減少傾向にある。



資料：農林水産省「製材統計」

（2）合板（全国）

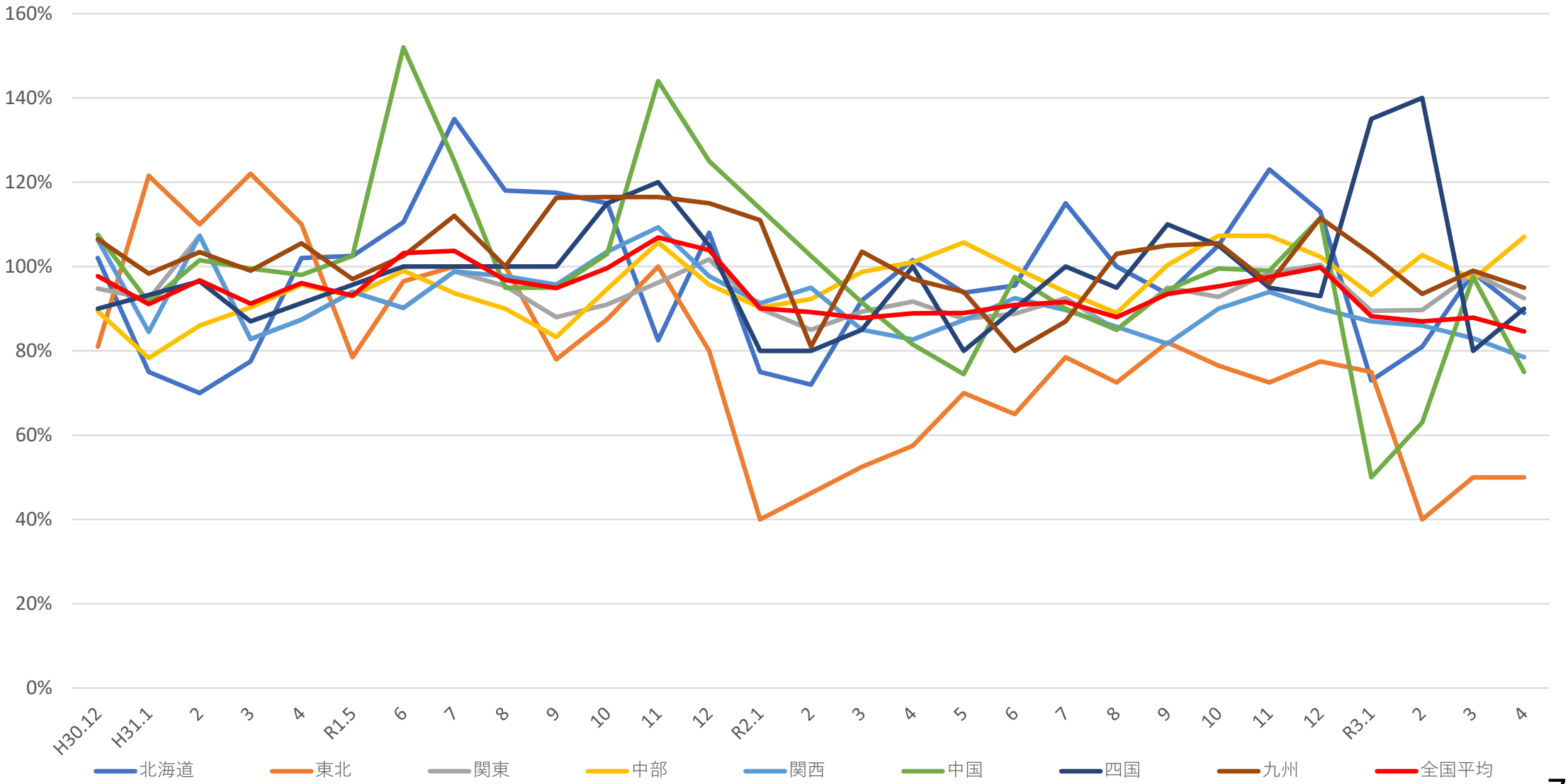
- **原木の在庫量**については、**令和２年４月以降急激な減少傾向**が続いている。
- 原木の**入荷量は令和2年４月以降減少**していたが、**９月以降は増加に転換**した。12月以降は原木不足のため減少傾向だったが２月は増加。
- **合板の生産量、出荷量**は、令和元年10月以降減少していたが、**令和２年９月から増加**に転じた。一方、**製品在庫は６月以降、減少傾向にある。**



資料：農林水産省「合板統計」

（３）プレカット稼働率（地域別・全国）

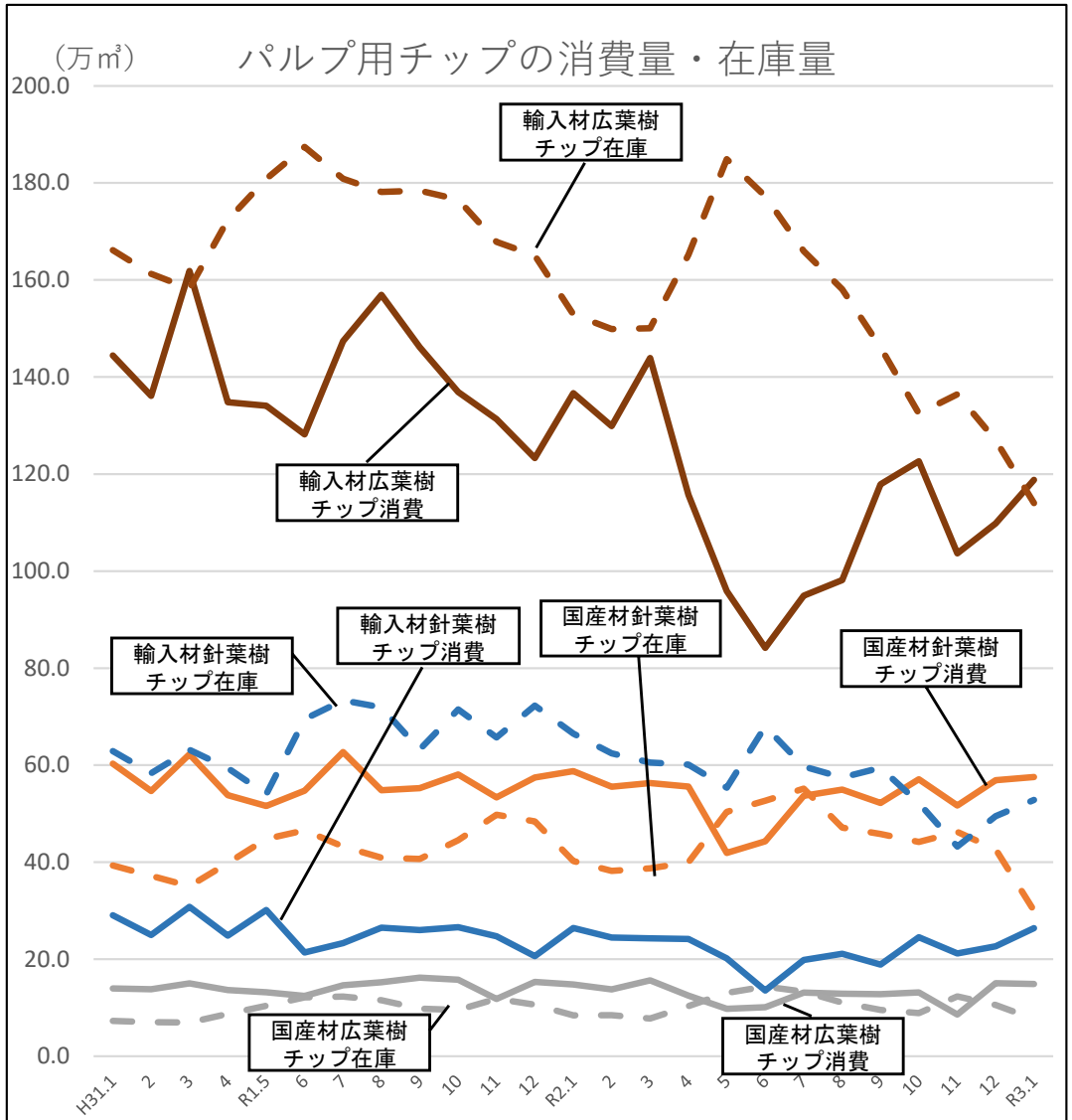
- プレカット稼働率は、全国的には**令和２年２月を底に１２月まで緩やかな上昇傾向**が見られた。令和３年１月には例年同様に減少傾向が見られる。
- 令和２年全体を通じて、**東北地区では大きな落ち込みが**見られた。



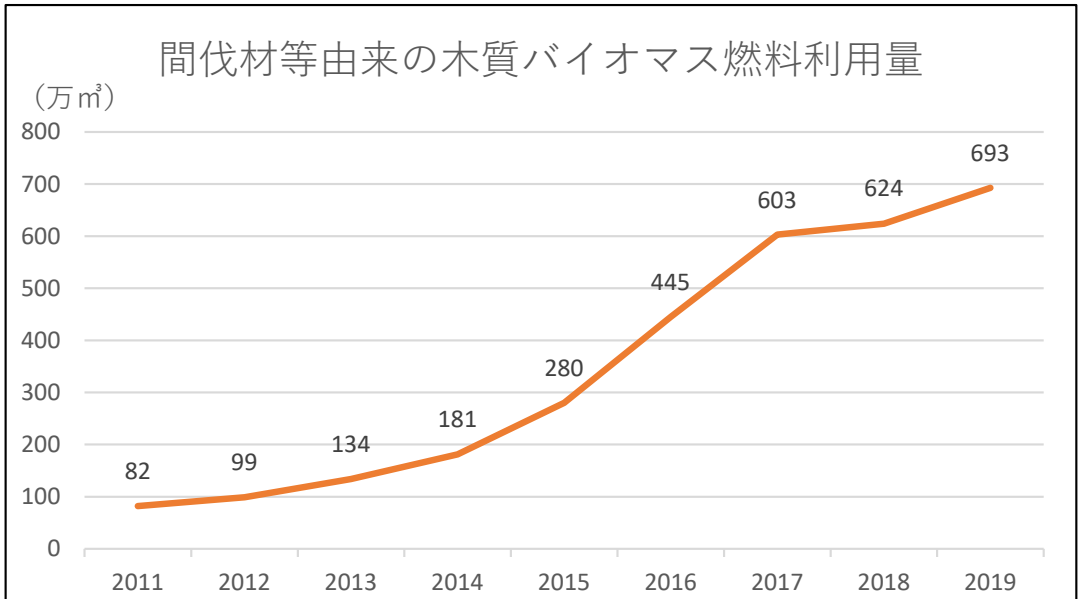
資料：日刊木材新聞調べ　※ 稼働率%＝加工量/加工能力、３月分は受注、４月分は見積もり

（４）チップ（全国）

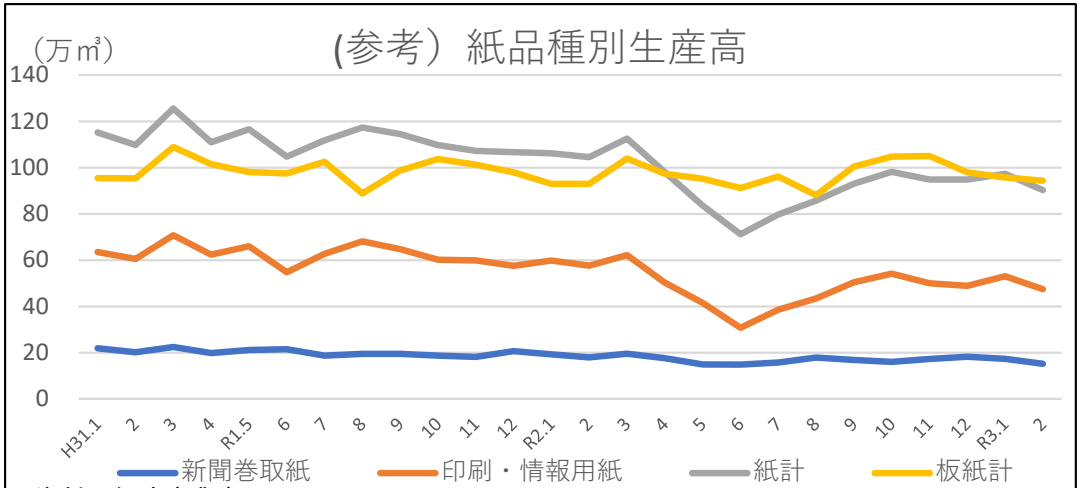
- パルプ用チップの消費について、**輸入広葉樹チップの消費量は令和２年４月から６月まで激減**した。その後は回復傾向。**国産針葉樹チップの消費量は、令和２年５月に大きく減少**したが、その後回復した。
- **木質バイオマス発電向け燃料**は、**増加傾向**が続いている。



資料：経済産業省「経済産業省生産動態統計年報　紙・印刷・プラスチック製品・ゴム製品統計編」



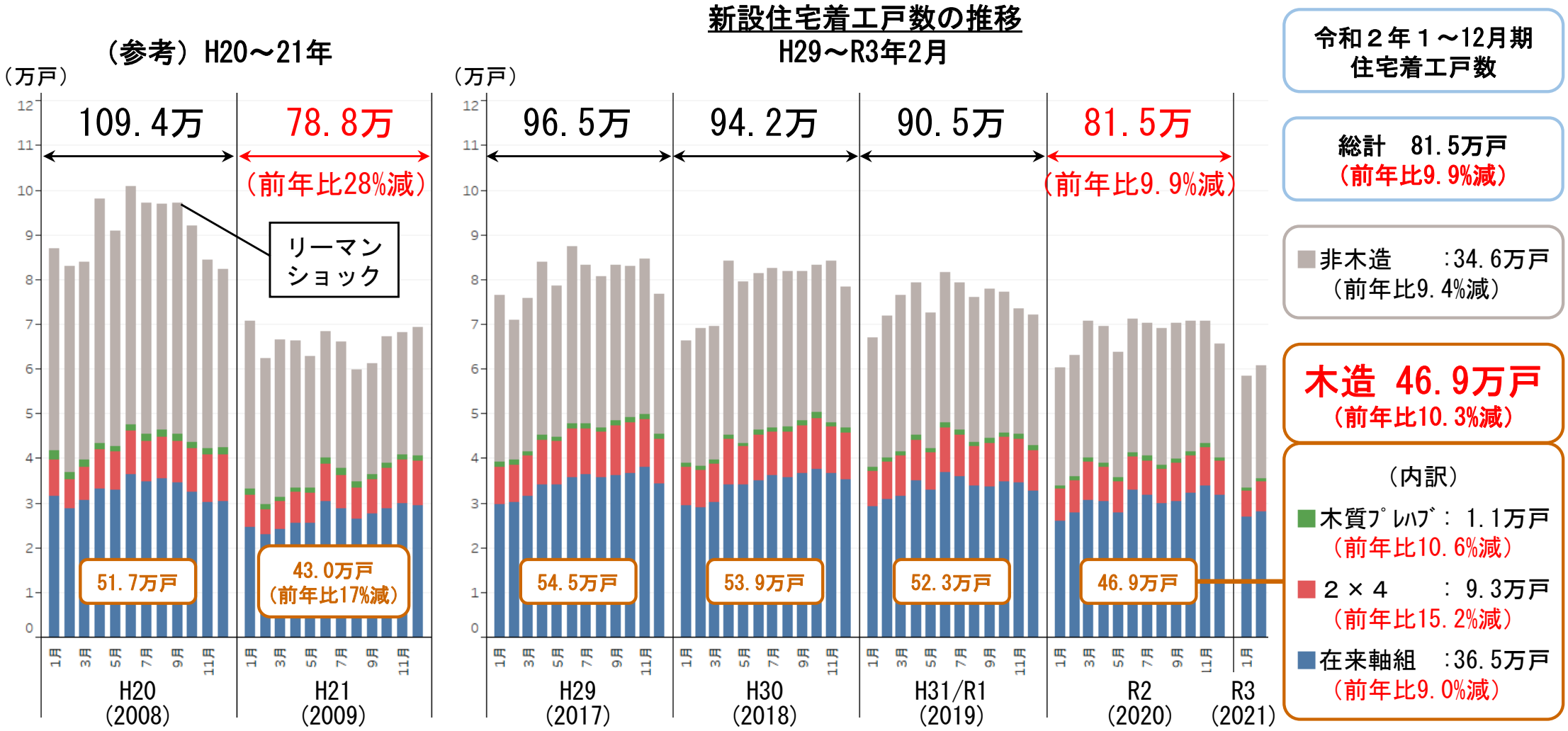
出典：木材利用課調べ（～平成26年）、林野庁「木材需給表」（平成27年～）



資料：経済産業省
「経済産業省生産動態統計年報　紙・印刷・プラスチック製品・ゴム製品統計編」

3　住宅着工数の推移（平成20年１月～令和３年２月）

- **令和２年の新設住宅着工戸数**は、**81.5万戸**（前年比9.9%減）。**木造住宅は46.9万戸**（前年比10.3%減）。
- **令和３年１～２月の新設住宅着工戸数**は、**11.9万戸**（前年比3.4%減）。
- 緊急事態宣言の発令により、住宅展示場の来場者数が落ち込むなど大手・注文住宅の受注機会が大幅に減少したが、郊外の戸建住宅に需要が高まるなど**全体としてはリーマンショックほどの落ち込みは見られなかった。**



資料：国土交通省「住宅着工統計」

（参考）住宅着工数の推移：利用関係別

- 利用関係別の木造率は、持家が最も高い。住宅着工数（全構造）は、前年同月と比べて持家が増加傾向、貸家は低調。
- 令和３年２月の**季節調整済年率換算値**は**計80.8万戸**で２か月連続の増加。

①利用関係・構造別着工戸数（万戸）及び木造率（%）

構造
- 非木造
- 木質ﾌﾟﾚﾊﾌﾞ
- ２×４
- 在来軸組

木造率(%)

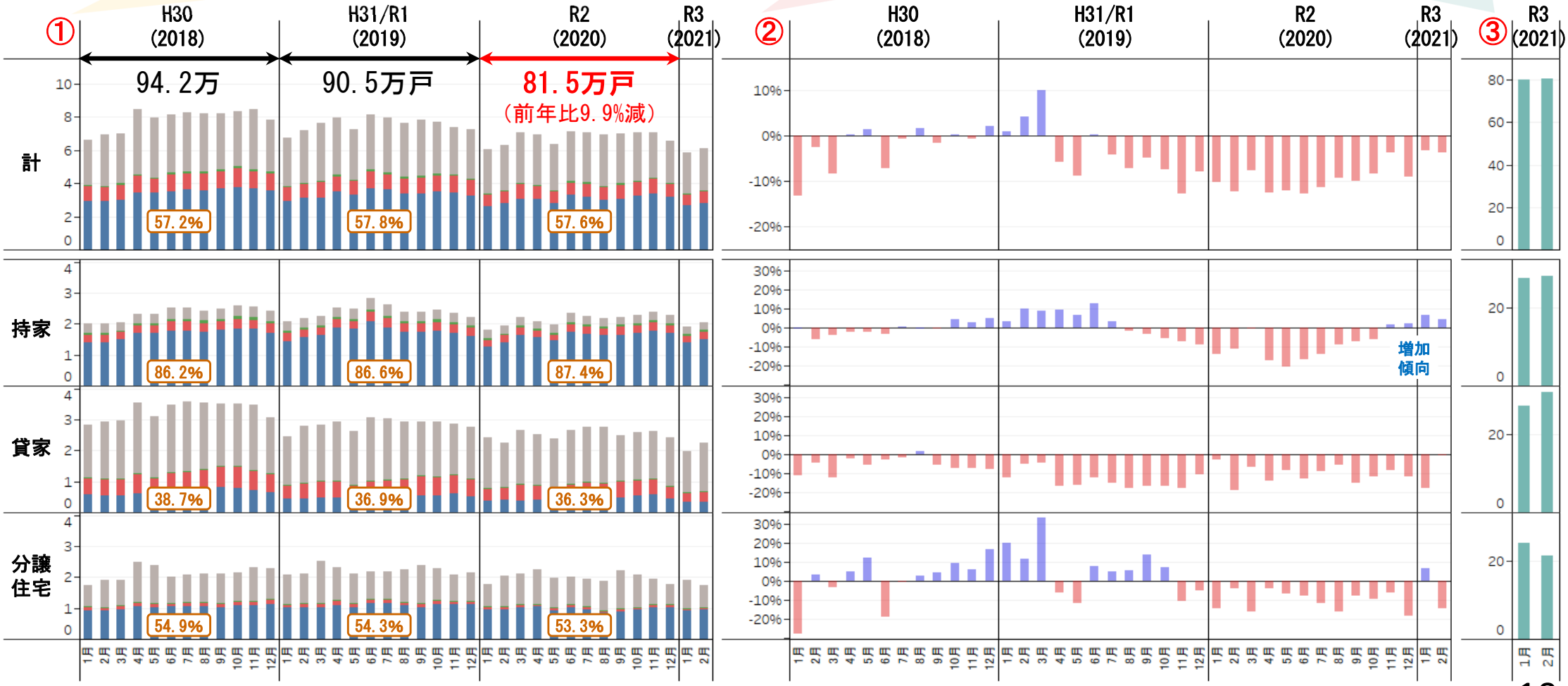
利用関係	R2年着工数の木造率(%)
計	：57.6%
持家	：87.4%
貸家	：36.3%
分譲住宅	：53.3%

②住宅着工戸数（全構造）の前年同月比（%）

・持家についてはR2年11月以降、前年同月と比べて増加傾向

③季節調整済年率換算値（万戸）

利用関係	R3年2月（前月比）
計	**：80.8万戸**（前月比0.8%増）
持家	：28.1万戸（前月比1.5%増）
貸家	：30.9万戸（前月比13.2%増）
分譲住宅	：21.2万戸（前月比13.9%減）



注：利用関係については「給与住宅」を除く。

資料：国土交通省「住宅着工統計」